

平成28年度和裁士技能検定（1級）学科試験解答

実施日：平成29年3月12日
 所用時間：90分

1. 次に挙げる家紋の名称を下記語句から選び、該当する欄にその記号を記入し、それぞれにふりがなをつけなさい。（配点10点）



- 【語句】①葛 ②上り藤 ③下り藤 ④笹籠胆 ⑤左三巴
 ⑥右三巴 ⑦横木瓜 ⑧九曜星 ⑨花菱 ⑩剣片喰

紋の記号	A	B	C	D	E
語句	9	1	7	3	4
ふりがな	はなびし	つた	きぎょう	さがりふじ	ささりんどう

2. 帯に関する次の説明文の（ ）の中に適当な寸法を記入しなさい。（配点5点）

- 胴回り104cm (2尺7寸4分) の女性の名古屋帯の手丈は (282 ~ 284cm < 7尺4寸5分 ~ 7尺5寸 >) 位にするといふ。
- 名古屋帯の垂柄中心は、垂先より約 (68cm < 1尺8寸 >) 位にする。
- 掛下帯の帯幅は、(26.5cm < 7寸 >) 位である。
- 名古屋帯ポケット口中心は、手先より (100cm < 2尺6寸4分 >) 位である。
- 丸帯・袋帯は普通帯幅は30 ~ 32cm (8寸 ~ 8寸5分) 位で、帯丈は (4.1 ~ 4.3m < 1丈6寸 ~ 1丈1尺4寸 >) 位である。

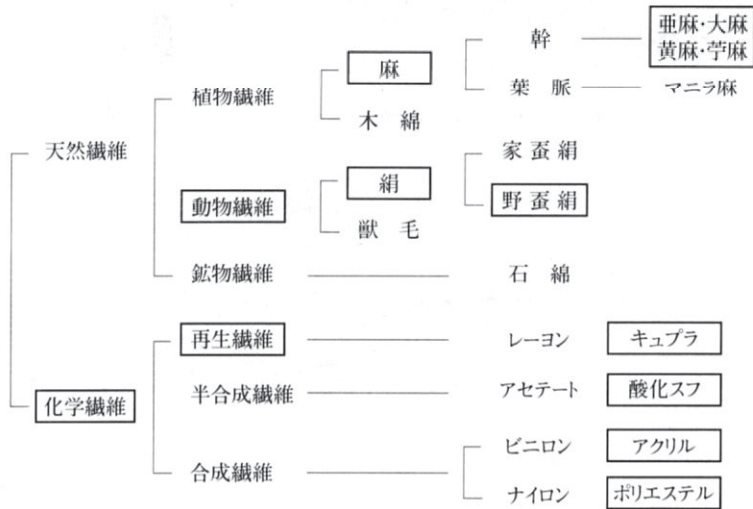
3. 次に挙げる左側の語句のふりがなを（ ）の中に記入し、右側の説明文で関連のあるものを線で結びなさい。（配点10点）

- 直垂 (ひたたれ) 1. 平安時代公卿の日常着である。
 晴装束 (はれしょうぞく) 2. 宿直装束ともいい、束帯の略装である。
 素襖 (すおう) 3. 女官の正装で女房装束或いは、十二単ともいう。
 直衣 (のうし) 4. 形は、大紋と同じであるが紋のないものをいう。
 衣冠 (いかん) 5. 武士が鎧下に着用したもので、後に武士の公服となった。

4. 次の説明文の（ ）の中に、適当な語句を記入しなさい。（配点5点）

- 100cmは、鯨尺で約 (2尺6寸4分) である。
- 糸は撚る方向によって、右撚りと左撚りに区分され、左撚りのことを (Z撚り) ともいう。
- 糸の太さは、糸の長さや重量の関係によって表示され (デニール) と番手法がある。
- 繭から引き出した一本の生糸は、二本のフィブロインと (セリシン) からなる。
- 経糸と緯糸の異なる素材で織った織物を (交織織物) という。

5. 下の表は繊維の分類を示したものである。表を完成させなさい。（配点10点）



6. 下記の模様の中で語句が正しいものには○を、誤っているものには×を（ ）の中に記入しなさい。（配点10点）

(麻の葉) (松垣文) (七宝) (青海波) (鱗)

・麻の葉 ・市松模様 ・扇格子 ・紗綾形 ・亀甲 ・矢絰 ・鱗 ・滝縞
 ・市松 ・大名 ・松皮菱 ・立涌 ・七宝 ・松垣文 ・青海波 ・弁慶格子

7. 道行コート以外の変り襟コートの名称と前から見た図を3種類書きなさい。（配点 名称 各1点/図 各2点）

(1) (都襟コート) (2) (千代田襟コート) (3) (道中着襟コート)

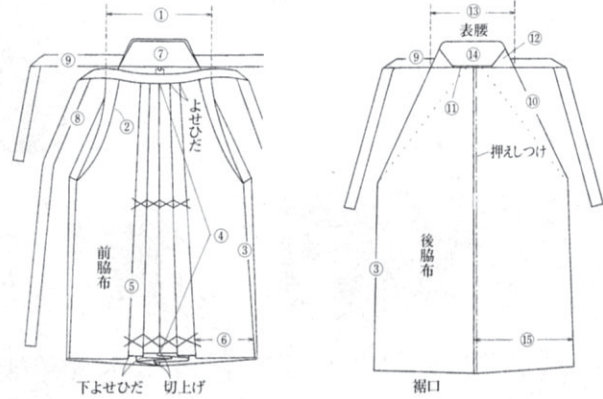
8. 次の文を読んで、正しいものには○、誤っているものには×を付けなさい。（配点5点）

- (○) 女物綿入れ長着の寸法、用尺、裁ち方、ヘラ付けは女物袷長着と同じでよい。
- (×) 袴天の裾折り返しは、後身頃より前身頃の方を多くする。
- (○) 無双羽織の胴接ぎは前裾か肩山です。
- (○) 井戸の井の字を図案化したものを井桁文様という。
- (×) 唐草模様は日本古来のものである。

9. 次の説明文の（ ）の中に最も適当な寸法を記入しなさい。（配点5点）

- 身長170cm (4尺5寸) の男子用袴の紐下寸法は (85 ~ 88cm < 2尺2寸4分 ~ 2尺3寸5分 >) 位が適当である。
- 身長155cm (4尺1寸) の女子用袴の紐下寸法は (90 ~ 93cm < 2尺3寸8分 ~ 2尺4寸5分 >) 位が適当である。
- 身長170cm (4尺5寸) の男子用仕舞袴の相引寸法は (37 ~ 44cm < 9寸8分 ~ 1尺1寸6分 >) 位が適当である。
- 男帯 (角帯) の帯丈は (4.0 ~ 4.2m < 1丈0尺5寸 ~ 1丈1尺0寸 >) である。
- 女袴のひだ数は、前5つ、後 (3つ) が一般的である。

10. 次の図は、男物行灯袴の完成図であるが、①~⑮の名称を記入しなさい。（配点15点）



- (前腰幅)
- (笹ひだ)
- (相引)
- (紐下)
- (一のひだ)
- (前脇幅)
- (裏腰)
- (前紐)
- (後紐)
- (投げ)
- (玉ぶち)
- (付菱)
- (後腰幅)
- (腰板)
- (後幅)

11. 次の5問について、各部分を寸法に応じ配分し、その名称をよく分かるように記入して裁断図を書きなさい（裁ち切りは実線、折り山等は点線で記入）。（配点各問4点）

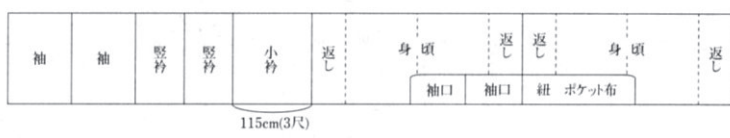
①並幅物12m08cm (3丈1尺9寸) の反物で一ツ紋付本裁女物長着を下記指定寸法で追い裁ちにした。

裁断図および各部の寸法と名称、紋の位置を記入しなさい。
 身丈背より出来上がり161cm (4尺2寸5分) ・袖丈出来上がり51cm (1尺3寸5分)
 繰越3cm (8分) ・袷下 (衿下) 出来上がり80cm (2尺1寸) ・他は標準寸法とする。

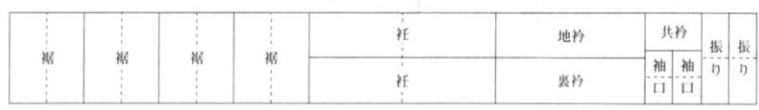
後袖	前袖	後身頃	上前身頃	後身頃	下前身頃	共衿	上衿	地衿	上衿
53cm 140	53cm 140	171cm 451	171cm 451	171cm 451	171cm 451	98cm 260	156cm 413	156cm 413	211cm 566

(注)袖の前後、上前身頃、上前衿、上前共衿、上前衿裾などの位置を明記すること。

②並幅物11m (2丈9尺) の表地で、千代田衿袷半コートを作りたい。その裁断図を記入しなさい。ただし、小衿のみ用尺を記入しなさい。



③並幅物11.08m (3丈1尺2寸) の反物で、留袖用比翼を作りたい。その裁断図を記入しなさい。ただし、袖は口・振とし、衿裏共布とする。



④並幅物10m (2丈6尺4寸) の袴地で男物袴付袴を作りたい。裁断図を記入しなさい。



⑤並幅物12m (3丈1尺7寸) の表地で二部式雨コートを作りたい。裁断図を記入しなさい。

